

## 1. 平成27年度の事業報告

平成27年度より、指定管理期間第3期がスタートし、今期は以下の3つを大きな方針として取り組んでいる。

- ① NPO・市民活動団体のパブリックリレーション力の向上（評価・情報開示・透明性の確保）
- ② NPO・市民活動団体のエンパワーメントおよびキャパシティビルディング
- ③ NPO・市民活動を支える仕組みの構築（寄付文化の醸成、潜在的関心層・無関心層へのアプローチ）

平成27年度は、こうした方針のもと以下の3点を事業方針として位置づけて、取り組みを行った。

### 1. NPO・市民活動を応援する人を増やします。

NPO・市民活動の担い手や団体へのサポートだけでなく、そうした活動を「応援する人」になってもらうための試みについて、初年度はその基礎作りの年となった。従来の「NPO・市民活動」の伝え方とは違う切り口で「NPO・市民活動」に触れてもらう機会をどう作るのか、試行錯誤を繰り返している段階である。

#### <初歩講座の再編>

従来の「そうだったのかNPO」というタイトルで市民活動とボランティアの要素と一緒に伝えていた講座を「市民活動とは？」と「ボランティアとは？」の二つに分けて、より詳しい内容で提供した。しかし、分割したことにより講座の伝わり方が、具体的に行動を起こしたい人のものという印象となり、参加者数は伸び悩んだ。また出張講座の準備もしていたが、その広報自体が弱く展開において課題が残った。

#### <市縁堂>

NPOがプレゼンテーションを行い、来場者が寄付等を通じて団体を応援するイベント。NPOという切り口ではなく、会場となる渉成園の庭園散策というオプション事業の実施によって、従来こうした場に参加をしなかった人達の参加を得ることはでき、それらも含めて会場のキャパシティいっぱいの来場者を得ることはできた。しかしながら、その効果は、まだ限定的であり、今後に課題を残している。

#### <ウェブリニューアル>

ひとまち交流館内の4センターの共通のインターフェースを残しながら、しみセン独自のHP構築に着手した。活動している人たちだけでなく、まだ活動していない、あるいはまだN

POを知らない人たちが、NPOに触れられる入り口となるような情報発信の方法を検討している。発信する情報量が多く、その加工の基礎パターンを作成することに時間を要したため、平成27年度中のオープンはできなかったが、平成28年度当初から一部オープンさせながら、継続してリニューアル作業を進める。

## 2. 活動したい個人の「はじめの一步」や個人／団体の「次の一步」を応援します。

ボランティア関連情報の発信、具体的な参加機会の提供を通じて、個人の「はじめの一步」の応援が充実してきた。

団体には、基盤強化につながる講座を各種提供している。全体的な傾向として、受講者には好評ではあるものの、受講者数そのものは伸び悩んでいる。どのようなアプローチが団体の状況や問題意識に響くのか、継続して工夫をしたい。

### <ボランティア情報の発信／ボランティアスイッチの連載>

ボランティア情報の発信を前年度から引き続き、フロアとブログを活用して行っている。情報の拡散数（ブログの閲覧数）は、月平均800件程度閲覧されている。動き始めたい個人にそのきっかけとなる情報を発信している。

「ボランティアスイッチ」は、ボランティア活動をしている人たちの体験をインタビューに基づいて発信するブログ記事。月に1度発信し、これから活動を始めようとする人たちが一歩踏み出せるような内容を発信している。

### <学生ボランティアチャレンジ>

学生Place+と連携して実施している「学生ボランティアチャレンジ」は、今期は夏と冬の2クールを実施した。それぞれ25人の定員を上回る応募があった。学生達は参加を通じて、自分に自信をもち、またそれぞれの団体が向き合っている社会課題そのものへの関心や理解を深めていく機会となっている。

団体側には、ボランティアの受け入れ方や接し方に悩みを持つこともある。受け入れ団体5団体による情報交換会を開催し、それぞれの団体のボランティアの捉え方などについて意見交換を行った。なかなか意見交換をする機会のないテーマであり、好評であった。

### <講座の新設>

新設講座の一つとして、設立時に悩みやすい「法人格の種類」に関する講座を開設した。2回実施したが関心は高くほぼ定員となった。

また新設講座「総会・理事会の役割」では、意思決定機関として団体運営上重要であるものの団体によってその運営にばらつきがあることから、基盤強化の視点から実施した。

### 3. 活動を充実させたい団体の更なる飛躍を支えます。

#### <連携／交流機能の強化>

特に、いきいき市民活動センター（以下、いきセン）との関係性づくりに重点的にとりくんだ。各センター事業への参加や運営課題のヒヤリング等から始め、コーディネート相談の対応などで関係性を深めてきた。特に中京いきセンでのコーディネート事例（p21 参照）は、いきセンだけでなくコーディネートした団体にも会員加入等の副次的な効果が生まれており、それぞれの団体のパワーアップにつながった。

全いきセン及びしみセンの合同研修会を開催（1月19日）し、職員同士の顔が見える関係性づくりの機会とした。来年度以降の連携促進のための基盤を作ることができた。

また、しみセンのトップページから市内の13カ所のいきセンの情報も見られるようにした。

#### <市縁堂>

活動紹介と寄付を募るためのプレゼンテーションを行う団体を公募したところ、定員通りの8団体の応募があった。各団体は、プレゼン講座やブラッシュアップの機会等を活用し、プレゼンテーションを作成した。内容や時間配分等、団体のプレゼンテーション力に大きな向上が見られた。

#### <寄付ラボ>

団体にとっての寄付の意味や寄付集めの工夫を中心に、6月～3月にかけて、全15回をブログで発信し、その全原稿を冊子として再編集し、3000部を発行した。平成26年度に続く発行となり、平成27年度版では、「寄付する側の気持ち」も掲載した。これは、団体にとっては寄付者の気持ちを知ることによって今後の取り組み方の参考になるとともに、これから寄付をしようとする人にとっては、自信をもって寄付というアクションを起こして欲しいというメッセージにもなっている。

#### <専門家相談会>

会計、労務、登記について実施している。会計については、相談対応の専門家から「団体からの質問内容がレベルアップしている」とのコメントもあり、各団体の運営力向上が見られている。一方、全体的には相談件数は減ってきており、団体の運営力の全体的な底上げのためにも、こうした相談機会があることを発信し、センターの利用を促す必要がある。

労務、登記については枠が少ない上に、限定されていることから利用しにくいという声もきかれており、平成28年度にはリクエストに応じた実施等の工夫を行う予定でいる。